



大洲高校 PTA 月報

大洲高校HP

公式インスタ



令和8年8月号

2学期を迎えるにあたって～挑戦を支える学校と家庭の協働～

教頭 濱田 直義

まだまだ厳しい暑さが続いています。後期補習と藤樹祭の準備が始まりました。校内には再び生徒たちの元気な声が響いています。保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動に温かい御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。また、夏季休業期間中におきましても、お子様の生活や学習を支えていただきましたことに、厚く御礼申し上げます。

2学期は、一年の中で最も長く、最も充実した学期です。授業はもちろん、藤樹祭、部活動の大会、そして進路実現に向けた取組など、生徒たちは多くの挑戦の機会に出会います。そこには達成感や喜びがある一方で、思うような結果が出ずに悩んだり、自信を失ったりする場面もあるかもしれません。

しかし、成長とは成功だけによってもたらされるものではありません。むしろ失敗や挫折の中から学び、もう一度立ち上がろうとする経験こそが、人を大きく成長させるのではないのでしょうか。

今なら八村塁選手の方がいいかもしれませんが、バスケットボール界の伝説的な選手であるマイケル・ジョーダンも、次のような言葉を残しています。

“I’ve failed over and over and over again in my life. And that is why I succeed.”

(私は人生で何度も何度も繰り返し失敗してきた。だからこそ成功できたのだ。)

世界の頂点に立った人物でさえ、自らの成功の背景には数え切れない失敗があったことを率直に語っています。この言葉は、私たちに「失敗しないこと」ではなく、「**失敗を恐れず挑戦し続けること**」の大切さを教えてくれます。

一方で、生徒たちが安心して挑戦するためには、周囲の支えが欠かせません。アメリカの教育家ヘレン・ケラーは、

“Alone we can do so little; together we can do so much.”

(一人ではできることはわずかですが、力を合わせれば多くのことを成し遂げることができます。)

という言葉を残しています。私は、この言葉が教育の本質を表しているように感じています。子どもたちは、一人で成長するわけではありません。学校での学び、家庭での励まし、地域の見守りなど、多くの人々との関わりの中で成長していきます。

特に高校生の時期は、身体だけでなく心も大きく成長する時期です。友人関係、学習、部活動、進路選択など、様々な課題に向き合う中で、不安や迷いを抱えることも少なくありません。学期の始まりは生活リズムや心身のバランスを崩しやすい時期でもあります。だからこそ、学校と家庭が日頃から連携し、小さな変化にも目を向けながら生徒たちを支えていくことが大切であると考えています。

私たち教職員は、生徒たちが「失敗しても大丈夫」「もう一度挑戦してみよう」と思える学校づくりに努めてまいります。そして保護者の皆様には、結果だけでなく、お子様が努力した過程や挑戦した勇氣にも目を向け、温かく励ましていただければ幸いです。

マイケル・ジョーダンが示した「**挑戦する勇氣**」と、ヘレン・ケラーが語った「**力を合わせる大切さ**」。この二つの言葉を胸に、学校と家庭が手を携えながら、生徒一人ひとりの可能性を伸ばしていける2学期にしたいと考えております。

今学期も本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。